

猪之鼻奨学会

編集発行者

猪之鼻奨学会

千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
〒260-8670 千葉大学医学部内
電話 043-226-2509 内線 5024

創立 1915年 (大正4年)

猪之鼻奨学会報 第 15 号 題字 井出源四郎 (第八代千葉大学学長)

公的意味付けと研究助成

医学研究院教授

伊豫雅臣

今回、猪之鼻奨学会から寄稿依頼を頂き、研究助成金というところで研究を始めたころに考えたことを書かせていただきます。1984年3月に千葉大医学部を卒業して千葉大医学部附属病院精神神経科に研修医として精神医学講座に入局しました。私自身は学生時代からポジトロンCT (PET) やMRIなどの画像診断法を用いた精神疾患、特に統合失調症の研究をしたいと考えており、研修医になってからすぐに先輩のMRI研究のお手伝いを始めました。また翌年の7月から稲毛にある放射線医学総合研究所臨床研究部(以下、放医研)の研究生になる機会が得られ、週に1、2日通うようになりまし

た。10月からは単科精神科病院に勤務することになりましたが継続して放医研に通うことを許可してもらい、結局、1997年1月に浜松医科大学精神神経医学講座に異動するまで定期的に通いました。放医研では医師だけではなく、薬学者、生物学者、物理学者など様々な分野の先生方と出会うことができました。また医師といっても放射線科医や神経内科医、脳外科医など精神科医以外の先生方とも交流を持つことができました。この出会いによって様々な視点からの、非常に多くのことを学ぶことができ、現在でもいろいろと教えていただいております。医学部を卒業し、このように恵まれた環境の中で研究をかじり始めることができ、特に研究費ということがも考えずに過ごしていました。実際にはちよつとしたことは「自腹を切つてもよい」のではないかと考えておりました。特に民間の精神科病院に勤務しているときには給料も比較的良好だったので違和感を覚えなかつたのかも知れません。しか

し、1986年10月から厚生省管轄の国立精神神経センター精神保健研究所の研究員になってからは状況が一変し、考え方も大きく変わりました。国費で雇用されるのだから、個人の給料は安くてよい、という雰囲気、概念的には理解でき

るのですが、家庭も持ったので現実的な不安はありました。一方、自分のラボの整備などをしていくに当たり、それまで自分が研究に参加できていたのが、多くの研究者や行政、事務系の人たちによって集められた研究費によるものであることを改めて意識するようになりまし

た。千葉大学にはいくつかの助成金制度があり、猪之鼻奨学会も特に亥鼻地区で研究活動する人たちに大きな支援として位置付けられています。若手研究者が伸び

亥鼻山に移って思うこと

薬学研究院教授

戸井田敏彦

伸びと研究し、しかもその成果を社会に公表して貢献していくというプロセスに今後も有意な役割を果たして行っていたらいいと思います。

この度、突然列島が襲われた未曾有の大地震、津波それに続く原発事故に被災された同窓生の皆様、特に東北地区にお住まいの皆様、衷心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。千葉大学薬学部でも2010年度末の諸行事が中止になり、平常の生活に復帰するまでには今少しの時間が掛かるかと思えますが、職員、在校生皆で力を合わせて、元の生活に戻るための精一杯の努力をいたしたいと考えています。私ごとになりますが、西千葉から亥鼻に研究室を移したのが2009年の4月

いという責任の重さを、職員のみならず学生諸君も肌で感じているのかもしれない。一方薬学二本柱の4年制コース、創薬を目指した学生たちもほぼ全員が大学院への進学を果たし、創薬研究者になるべく日々研鑽を積んでいます。現在長引く不況が影響して、就職先の選択に日々悩んでいる学生も多く見受けられます。しかし、大学を知的

でした。亥鼻山、特に新棟最上階のレストランからの眺望に、引越しの煩わしさや通勤の不便さなど一遍に忘れてしまい、現在も季節ごとに多彩な変化を見せる景色を堪能しています。2011年秋には西千葉に残っていた薬学部の研究室がすべて移設を完了し、学部としてようやく物理的にも一体となる目処が立ちました。薬剤師教育6年制初の卒業生が巣立つ年度を迎え、半年近くわたる病院薬剤部、市中における実習を終えた学生たちはずいぶんと逞しくなつて戻つてきたように感じます。薬学部の将来が彼らの今後の活躍に掛かっているかも知れない存じます。

平成22年度事業報告

自平成22年4月1日至平成23年3月31日

財団法人 猪之鼻奨学会

1. 事業の状況

(1) 研究補助金(150万円)の助成 内訳 各50万円 3件

医学研究院 22名、薬学研究院 2名の応募者のうち下記の3名に交付されました。

Table with 4 columns: 交付研究者, 所属, 職名, 研究題目. Rows include 有吉範高, 坂本信一, 荒井緑.

(2) 奨学金の貸与 医学薬学府(医) 大塚 裕之 30万円

(3) 薬草園の整備管理 10万円

(4) 猪之鼻奨学会会報の発行、13,500部発行

寄付者御芳名録 (平成22年度) table listing donors and amounts.

寄附のお願い
財団法人猪之鼻奨学会は、大正4年(1915年)に創立以来多くの方々からの善意の寄附金により奨学事業を実施してきております。

収支計算書

自平成22年4月1日至平成23年3月31日

1. 収入の部

2. 支出の部

(単位:円)

Main financial statement table with columns for 勘定科目, 予算額, 決算額, 差異. Divided into 収入の部 and 支出の部.

このたびの東日本大震災は、地震、津波、原発事故により、未曾有の事態を引き起こし、死者・行方不明者は2万7千人以上といわれています。また、原発事故は放射線汚染のこれ以上の拡大を防ぐべく、綱渡りの作業が続いており、まだ事態収拾のめどがたっておりません。まさに国難であり、国を挙げての取り組みが期待されております。犠牲になられた方々へのご冥福を心からお祈りします。共に、被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。

(服部 孝道(会長))

財団法人猪之鼻奨学会募金結果報告

千葉大学医学部・薬学部同窓会員

および関係者各位殿

平素より財団法人猪之鼻奨学会の事業につきましては多くの方々のご深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

平成二十二年度に実施されました募金は、大勢のご賛同とご協力が得られました。ここに報告させていただきます。

ご寄附いただきました金員は猪之鼻奨学会の事業費として有効に活用させていただきましたと思います。お蔭様を持ちまして平成二十二年度は4件で180万円の奨学金と研究補助金を交付することができました。

今後も皆様方の暖かいご支援とご指導をいただきながら当奨学会の発展に理事・評議員共に更なる努力を重ねる所存です。ここに深甚なる謝意を表するとともに、皆様方のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

平成二十三年五月一日

財団法人 猪之鼻奨学会

会長 服部 孝道

副会長 山本 恵司

理事 一同

評議員 一同

募金総額 七十七名 一、〇七八、〇〇〇円

坂本晴名	奈良県	橋本光宏	千葉市
諏訪園 靖	千葉大学医学研究院	有賀直文	佐倉市
今津 暉	香取市	橋本英明	東京都
原田康行	船橋市	滝口裕一	千葉大学医学研究院
徳重克彦	四街道市	安食親孝	川崎市
有馬忠正	千葉市	力武知之	銚子市
服部孝道	千葉市	黄田悦子	東京都
渡辺 武	船橋市	小熊英夫	東京都
前田 實	神奈川県	新井 正	東京都
戸塚 敦子	武蔵野市	長谷川 潔	東京都
遠山 敬介	東京都	柴田 千葉男	八千代市
鈴木 正巳	富士市	唐木 千穂	松本市
萩 巢 敏子	船橋市	村上 泰興	船橋市
菊池 周一	袖ヶ浦市	坂本晴名	奈良県

佐々木宣明	秋田県	天海照夫	栃木市
田中則好	市川市	砂田 荘一	千葉市
木内 一郎	香取市	幸部 吉郎	木更津市
天野 晋	館山市	津村 澄雄	船橋市
奥田 桂子	千葉市	大濱 博利	千葉市
小林 清房	甲府市	中村 和郎	千葉市
石下 峻一郎	さいたま市	田中直子	山梨県
宇野 一真	富士市	古木 新	香取市
月岡 道雄	東京都	大井 利夫	栃木県
中山 貴裕	沼津市	中山 賢次	横浜市
下山 賢次	横浜市	許 奎 璋	栃木県
中島 浩二	浜松市	長田 敏明	大阪府
齋藤 宏暢	東京都	齋藤 美和子	東京都
奈良林 定	埼玉県	神山 英明	東京都

鈴木 康夫	愛知県	薮田 光紀	横須賀市
高木 良章	旭市	水鳥川 俊夫	茨城県
渡辺 大輔	茨城県	前嶋 清	千葉市
伊豫田 稔	千葉市	佐野 迪雄	三鷹市
石川 達雄	千葉市	中川 晃一	千葉市
長田 紀春	沖縄県	布施 吉弘	千葉市
神田 尚忠	東京都	忍足 美代子	千葉市
松崎 弘	茨城県	福田 富彌	千葉市
和田 力	君津市	瀧口 正樹	千葉大学医学研究院
守 由美子	千葉市	鈴木 弓	高崎市
岩崎 吉宏	東京都	瀬川 襄	東京都
和泉 佳子	千葉市		

二十三年三月三十一日現在
総合計 七十七名 一、〇七八、〇〇〇円